

平成30年度

名古屋大学大学院環境学研究科  
入学（進学）試験受験案内  
（第Ⅱ期募集）

本冊子は、「平成30年度名古屋大学大学院環境学研究科博士課程（前期課程及び後期課程）  
学生募集要項（第Ⅱ期募集）」の説明内容を補うものです。

研究科・専攻・分野等の概要，関係教員の連絡先，受験に際しての各専攻ごとの注意事項  
等が記載されています。

受験を希望する者は，必要な部分を熟読のうえ，出願の手続き等を行ってください。

名古屋大学大学院  
環境学研究科

# 平成30年度名古屋大学大学院環境学研究科 入学（進学）試験受験案内（第Ⅱ期募集）

## 目 次

●名古屋大学大学院環境学研究科について	1
●専攻の概要	3
●学 位	7
●平成30年度環境学研究科関係教員一覧	8
●受験に際しての注意事項等	
地球環境科学専攻	15
都市環境学専攻	24
社会環境学専攻	35
●統合環境学特別コースの案内	37

※教員の居室，試験会場等の建物の場所については，

<http://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/index.html> をご参照ください。

## 名古屋大学大学院環境学研究科について

古来、自然は人類に多くの恵みをもたらす一方、苛烈な気候やさまざまな災害を通して、我々に試練を与えてきました。科学技術は、これまでの多くの場合、自然が与えた障害を克服し、その制約を緩和する努力の結果、発展してきました。しかしながら、最近では、人間の生産活動が増加するに従って、人間の生み出した科学技術が自然を傷め、結果的に人間自身の生存に脅威を与えることも多くなってきました。世界的な都市化や国際化などによる人間同士の近接性の急激な増進も、人工的な都市環境、生活環境のありかたに対し再考を促すに至っています。地震などの天災に悩まされてきた日本にとっては、自然災害に対する備えも重要な課題です。したがって、環境に関する問題は、公害や地球温暖化など狭義の環境問題を包含し、永続性も考慮した真の豊かさないし人間が幸せに生きるための条件を幅広く捉え直す問題だと考えることができます。

このような幅広い環境問題に対応するために、当研究科は、惑星地球の進化の過程と動態の仕組みを解明する地球環境科学専攻、物や物づくりに基盤を置き、共生型生活環境を構築・保全してゆく方法を探る都市環境学専攻、人間の行動とそれを取り巻く社会的環境との関連を考究する社会環境学専攻という三つの専攻から構成されています。従来の学際的教育・研究組織と異なり、伝統的な各分野の営々とした彫琢を学際的な教育・研究に反映させるとともに、学際的な分野が抱える現実的な問題意識を既存の学問領域にフィードバックすることを目指しています。

環境に関連した諸学問分野の専門知識を広く身につけ、環境問題の本質を体系的に理解し、問題克服や合意形成に汗を流しながら、社会や組織を導くことのできる人材を育成することが、教育目標の大きな部分を占めています。その目標をめざし、三つの専攻が連携して、「持続性学」と「安全・安心学」という二つの大きなカテゴリーの傘下に専攻横断型の研究・教育プログラムを立案・推進しています。これによって時宜に応じた学際的プロジェクト研究を進めると同時に、具体的な環境問題を取り扱う中で生じた様々な課題を基盤研究の場に還元させて新たな概念を構築し、さらに多領域から出てきた概念を俯瞰的立場から総合することを試んでいます。

皆さんの中には、幅広く環境問題を勉強したいと思う方や、必ずしも環境という名前に囚われず既存の分野の研究に邁進したいと思われる方もいると思います。前者のような方には、環境に関連する諸分野の結論のみを寄せ集めた知識としてではなく、その結論を得るに至った各専門分野の前提や論理なども可能な範囲で理解できる機会が準備されています。後者のような方には、自分の専攻している一見狭隘な学問分野が果たしている人類への輝かしい貢献の一端を知る機会が準備されています。

**地球環境科学専攻**では、地球全体を人類活動をも含む一つのシステムとしてとらえた新しい地球環境科学の教育・研究を通して、地球環境問題に関する科学的な知識に基づいて地球環境の

観測・評価・診断ができる能力を持った人材を養成します。また、地球環境という広い視野の下に、自然科学としての地球科学を究める専門家を養成します。**都市環境学専攻**では、人間社会を成立させる主要な組織基盤である都市について考えます。都市の空間ストックとそれを支える物質循環を、地球環境の視点から再検討し、生活質の持続的向上のためのテクノロジー、そしてコントロールのシステムを探索しつつ、人の視点に立って、毎日の生活の場である建築・都市・地域における自然環境—人工環境—人間環境のあらたな関係を創生するのに有為な人材を養成します。**社会環境学専攻**では、主に人文社会科学の分野から、人間と自然との共生関係を創り出すために、「造られた環境」としての社会環境の様態と機能を分析し、価値規範の妥当性と科学的客観性を備えた政策評価・提言の可能性を追求するとともに、国内外の社会環境政策にかかわる様々な分野の要求に応えることのできる専門家を養成します。

環境学研究科は、未知の学問世界を開拓する総合性と専門性を併せ持っています。したがって、学生として、多様な分野に飽くなき好奇心をみなぎらせる皆さんを歓迎します。入学試験問題も、理学、工学、人文社会科学などの専門性の高いものだけではありません。専門性を問う試験に加えて、環境学の学習意欲や探究心を評価する試験を行います。

本研究科における教育目標は、次の3点に集約されます。

- 環境学の基礎に裏打ちされた思考力で多様な環境問題に果敢に取り組む高度職業人を広く社会に供給する。
- 自らの専門領域に閉じない普遍的な英知を身につけ、文理にまたがる幅広い学問分野を自由に咀嚼するジェネラリストを育てる。
- 次世代の新しい学術分野の創出を担う中核研究者を育成する。

本研究科における学位、修士または博士の学位は、それぞれに所定の授業科目を履修して所定の単位数以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文または博士論文の審査及び試験に合格した者に授与されます。授与される学位は、環境学、理学、工学、建築学、経済学、法学、社会学、地理学の8種類のうち、いずれか一つです。

## 専攻の概要

### ○ 地球環境科学専攻 (<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/dept/earth.html>)

地球環境科学専攻では、地球全体を人類活動を含む一つのシステムとしてとらえた新しい地球環境科学の教育・研究を行うことを目指している。地球惑星科学系（地球環境システム学、地質・地球生物学、地球化学、地球惑星物理学、地球惑星ダイナミクス、地球史学、生態学）、および大気水圏科学系（地球環境変動論、気候科学、物質循環科学、地球水循環科学）の教育・研究を行なう2系から成る。教育カリキュラムは2系で共通である。地球惑星科学や大気水圏科学の広い範囲にわたる教育・研究を行なうとともに、地球環境問題に関する科学的な知識に基づいて地球環境の観測・評価・診断ができる能力を持った人材の育成を行う。

分野名	概要
地球環境変動論	地球環境がこれまでどのように変動してきたかを理解し、今後、人の活動が加わり、どのように変化するかを予測することが、人類の生存のために重要である。氷河や樹木年輪に残された記録の解析から過去を、都市から地球全体までの様々なスケールでエアロゾル・大気汚染物質などを測定し解析することにより現状を把握し、さらに、その変動メカニズムの理解や将来を予測するための教育・研究を行う。
地球環境システム学	地球システム科学の立場から、地球環境を人類の諸活動と自然との相互作用から考察し、これについての教育・研究を行う。主として、各種のリモートセンシングデータを用いた地球・惑星環境の解析、地球環境変動の解読やモデリングの研究、自然エネルギー利用や森林の地下部生態に関する臨床環境学的研究など、本専攻の他分野と連携して教育・研究を推進する。
気候科学	近年の温室効果気体の増加に伴う地球温暖化は、現在最も深刻な地球環境問題となっている。今後の温暖化・地球環境変動を予測するためには、気候の維持・変動のメカニズムの解明が不可欠である。当講座では、気候・地球環境変動に関わる様々な物理・化学的プロセスの理解、温室効果気体・オゾン・エアロゾルなどの大気組成変動および雪氷圏変動の解明・予測を目指し、基礎的・応用的な教育・研究を展開している。
物質循環科学	地球環境の維持と変遷には、様々な時間・空間スケールの地球表層の物質循環が深くかかわっています。当講座では、大気・海洋・陸域での物質の循環及び生物・生態系の役割、さらに、それらの過去・現在・未来の変化について研究を行い、その研究成果を反映した教育を実践しています。野外調査・観測、実験、数値解析を通して得られる研究の成果は、地球システムの現状や過去・将来の変遷の包括的な理解を促すだけでなく、地球規模の環境問題に適切に対処することに貢献するものです。
地質・地球生物学	地質学と古生物学の伝統を継承し、地質学又は地球生物学で取り扱う長時間スケールでの地球環境・地球生命環境の変遷と生命の進化に関する教育・研究を行う。具体的には、地殻、マントルのテクトニクス及びそれらの相互作用を、フィールドワークや機器分析などの研究手法を通じて、堆積作用、変成作用、地球深部における物質循環や地質年代学の観点から解明する地質学的教育・研究を行うとともに、生物とこれを取りまく地球環境との相互作用及びそれらの進化を、古生物学、分子系統学、生態学等の手法から解明する地球生物学的教育・研究を行う。
地球化学	46億年の地球史の結果として成り立っている地球環境を理解するには、太陽系成立以降の物質系進化の歴史を明らかにすることが重要である。そのために、当講座では地球外物質（隕石、月・惑星、星間物質）を研究する宇宙化学、地球物質（地殻・マントル物質、天然水、化石）の分布・循環・進化を研究する地球化学、人類活動と地球物質系とのかかわりを研究する環境化学を融合し、宇宙・地球・環境を化学的手法によって解明する教育・研究を行っている。主として、岩石・水の化学的分析、放射性同位体を用いた年代測定、希土類元素の化学的挙動、衝撃実験による有機物生成機構の解明、惑星物質の元素同位体変動からみた原始太陽系の進化素過程の解明、惑星大気や星間物質の分光観測、生物試料を指標とした海洋環境汚染解明、堆積物・堆積岩・化石を用いた古環境復元などの教育・研究を推進している。

地球惑星物理学	地球と惑星の諸現象を物理学的手法でとらえ、太陽系惑星としての地球の進化と人類の生存と共立する地球環境について理解することを目指す。講座として協働できる研究上の柱として、惑星科学（惑星系の形成過程と、地球を1つの惑星として捉え、あり得る「地球」の姿を探究する研究）、複雑系地球物理学（断層破壊や複雑流体、ソフトマターの物性など地球惑星科学において重要な物理素過程の理論的・実験的研究）、生命惑星進化学（ハビタブル惑星の条件や地球生命圏相互作用モデリングなどに関する研究）を掲げ、これらに関する地球内部物理学・惑星物理学の教育・研究を行う。
地球惑星ダイナミクス	日本列島は太平洋プレートやフィリピン海プレートの沈み込む地域であり、世界で最も研究が進んでいる代表的なサブダクション帯である。日本海溝や南海トラフに起こる巨大地震や内陸活断層の地震、および日本列島に広く分布する火山は、このサブダクション帯を特徴づける自然現象である。地球惑星ダイナミクス分野では、地震や火山噴火の発生メカニズムの解明や活動予測を目的とし、観測や理論的考察を基にした物理現象のモデリングや、観測・解析手法の開発など幅広い研究・教育を行っている。
地球史学	現在の地球は、地質時代から現在までに起きたさまざまなイベントの集積結果であり、また同時に、未来の地球の姿を映し出す鏡でもある。地球史学分野では、地球年代学を機軸にして、46億年にわたる地球史とその未来像に関する諸問題を取り扱う。自然現象から人類活動までを視野に入れ、地球を構成する岩石・化石はもとより、考古試料や文化財をも対象にした各種の年代測定、試料情報の解析と分類・整理、フィールドワークによる試料の産状や時間的関係の解明、などに関する教育・研究を行う。
地球水循環科学	多圏にまたがる地球水循環システムとその変動に関わる諸過程を研究している。特に、雲・降水の物理・化学過程、気候システムにおける大気-海洋-陸面相互作用、生物過程にも着目した陸域と海洋での水循環・物質循環過程について、観測・データ解析、人工衛星データ解析、数値モデル等の手法により研究している。
生態学※	地球環境は、生物圏との相互作用の中で大きな変遷を遂げてきた。この認識に基づいて、生物の多様な適応進化と、その総体としての生態系の成立および機能を統合的に理解することを目指す。当講座では、フィールドワークに比重を置き、バイオリギングや地理情報システム等の先端的アプローチを駆使して、太古代に生きていた生物から現世の大型動物まで、多様な生物が織りなすさまざまな生態学的現象を対象とした教育・研究を行う。

※平成30年4月1日都市環境学専攻から異動予定の、夏原由博教授、杉谷健一郎教授、依田憲教授により構成される。



○ 都市環境学専攻 (<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/dept/design.html>)

都市環境学専攻では、人間生活の基盤となる場を「都市」と定義し、持続可能かつ安全・安心な都市環境を創造するための技術と制度に関する総合的な教育・研究を行う。物質環境学コース、空間環境学コース、建築学コースの三つの教育コースを用意し、物質循環および空間利用の視点から、それぞれ物質科学、土木工学、建築学の継承発展を図りつつ、これらを超えた連携融合を図る。すなわち、地球環境問題に対処し自然共生型社会を実現するために、エネルギーや物質による環境負荷に関わる諸問題、都市の持続性と安全・安心性を高める技術と制度、自然環境と人間社会活動を調和させる建築・都市・地域のデザインと構築・保全技術など、新たな学問体系「環境学」の創生を目指した教育・研究を推進する。

分野名	概要
都市持続発展論	自然への負荷から都市環境をみると、経済諸活動が地球環境に及ぼす影響のメカニズムを把握し、それを軽減する都市を構築する技術と制度が必要となる。本分野では、土地資源の有効利用、良質の建物・社会基盤整備のための方法論を構築するとともに、土壌や河川・沿岸域堆積物の生産性と汚染物質の自然浄化能力などの物質循環メカニズムを地球化学・鉱物学等の視点から解明し、良好な物質循環とストック化を図り、持続可能な都市を構築する技術と制度の体系化に関する教育・研究を行う。
環境・安全マネジメント	自然・物・人の調和した持続可能、かつ安全で安心な都市生活環境を形成するために、多面的な居住環境評価に基づいた快適性・省エネルギー性を両立する最適設計のあり方、市民、行政及び専門家の協働による新社会システムの構築、資源の有効活用による都市環境の創出と保全・発展、大都市の災害軽減・制御や危機管理、自然・都市・社会に関する多様な地域情報システムの開発と運用、歴史的環境の保全と文化遺産を積極的に活用したまちづくりなど、人間活動の視点に立った都市環境のマネジメントにかかわる包括的な教育・研究を行う。
環境機能物質学※	持続可能な社会の構築には、限られた資源が持つ機能を理解して、その機能を十分に発揮させなければならない。そのためには、情報技術やシミュレーションなど様々な手法を活用して、環境機能やその制御の可視化と解明、新たな環境機能の付与、物質・エネルギー・生態システムのマネジメントが重要である。新たなエネルギー技術、環境情報システムや環境機能物質の開発と管理、流域・地域・土壌の生態系の評価や保全、再生に関する教育・研究を行っている。
物質環境構造学※	社会の持続的発展と生活の安全・安心を確立するためには、自然と人工物質との調和に基づく環境構造を理解し、これと合致した方法で環境問題に対処していかなければならない。本分野では、有機化学、生物学に立脚し、総合的に環境構造を究明するという視点から、有害物質の原子・分子レベルの様態やマクロ複合構造のダイナミズムに基づいて、環境汚染の修復、環境への物質の低負荷化等に関する教育・研究を行う。
地圏空間環境学	産業や社会の発展に連れて、人間活動が地圏空間の環境に及ぼす影響が重大となっている。本分野では、人間活動が及ぼす自然システム及び社会経済システムにおける環境変動のメカニズムと影響リスクを解明し、その影響を軽減・回避するための先進国、発展途上国及び国際社会における社会経済的枠組みや、地域・都市計画、建築基準等の物理的な規制制度とそれらの自然環境への汚染影響や人間活動の安全に関する管理のための技術について教育・研究を行う。
地域・都市マネジメント	都市、地域、国土を対象とした空間環境を良好に維持し発展させるためには、都市化過程における土地利用、交通、社会基盤施設を適切に制御・維持する必要がある。本分野では、先進国・途上国の地域・都市が社会経済の発展段階に適応し、かつ自然と共生し得るための制度と技術を作り上げるために、交通の需要管理、橋梁などの建設・維持管理を含めたトータルな管理、それに伴う温暖化ガス等のライフサイクル環境負荷の軽減などの分析方法論と政策に関する教育・研究を行う。
建築・環境デザイン	これまで蓄積されてきた建築・都市計画、建築デザイン、建築史、環境計画、構造デザインにかかわる教育・研究を継承しつつ、安全・安心性など物理・生理・心理面の評価や社会・文化・歴史面の評価を踏まえた上で、生態系の保全や省エネルギーなど環境全般に対する負荷低減や社会・文化・歴史的文脈の活用などを盛り込み、また、市民との協働という新たな方法を用いて計画・デザインし、更には建設された後の保全をも行う総合的な建築・環境の評価・計画・デザイン・保全の体系としての教育・研究を行う。

建築構造システム	安全で安心な建築・都市環境を具現するための構造システム技術として、上部各種構造・基礎構造、大規模空間・複合構造物、免震・制振（震）構造物、海洋等の特殊環境下にある構造物などの計画法、設計法及び構法、地域特性を踏まえた地振動・被害予測、設計用荷重・リスク評価、建築材料の物性・性能の評価・設計・制御、建築物の生産システム及び新材料の開発などの既存の教育・研究を継承するとともに、建築物の診断・改修・維持・管理システム、リサイクル技術など、資源循環型構造システムの構築・保全を志向した教育・研究を行う。
----------	---

※「環境機能物質学」分野の夏原由博教授、「物質環境構造学」分野の杉谷健一郎教授、依田憲教授は、平成30年4月1日より本研究科地球環境科学専攻に異動する予定である。

○ **社会環境学専攻** (<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/dept/society.html>)

本専攻は、主に人文・社会科学の分野から、人間と自然との共生関係を創り出すために、「造られた環境」としての社会環境の様態と機能を分析し、価値規範の妥当性と科学的客観性を備えた政策評価・提言の可能性を追求するとともに、国内外の社会環境政策にかかわる様々な分野の要求に応えることのできる専門家を養成する。

分 野 名	概 要
環境政策論	多様な環境問題をめぐる人間及び組織の社会的行動原理を解明することを通じて、環境政策のあり方に対する指針を得ることを目的とする。このために、経済学、法政治学、社会学、地理学等の人文・社会科学で構成される他の分野や理工系の他専攻との連携を推進しつつ、世界各国の環境政策や企業、非政府組織による環境対策、環境問題をめぐる国際的な協調政策及びそのための機構・制度のあり方に関する教育・研究を行う。さらに、理論的な分析を踏まえながら、連携研究プロジェクトやフィールドリサーチ等を通じて、環境問題の本質を理解し、環境政策の評価・提言能力を養うことを目指す。
経済環境論	社会環境における経済・経営的側面、都市・地域の環境・生産・交通や、地球環境問題と生産性・経済成長、経済発展と環境との関係、企業の経営及び組織戦略など、社会環境をめぐる諸問題を解決するための社会経済政策及び経営戦略に関する教育・研究を行う。具体的には、空間経済学、環境経済学及び内生成長論などの理論分析、空間計量経済、環境経済の計量分析などの実証分析、経営組織論や経営戦略論などの経営分析を行っている。これらを中心として経済学的、統計学的、経営学的な観点から分析を行うための基礎・応用力を修得することを目的としている。
環境法政論	環境法や環境政治など人間環境をとりまく法政分野に関する理論的・実証的検討を行うとともに、その基礎科学としての政治社会環境の歴史的展開および社会的価値観や倫理意識形成についての研究・教育をおこなう。その際、我が国及び各国における環境に関わる法システムや政治過程の動態を研究し、政策検討や理論面へのフィードバックをめざすことに加え、法・行政・政治など具体的な社会制度のみではなく、それを支える政治・社会の規範形成の面にも視野を広げて考察を進めることとしている。
社会学	社会学は、人々の関係のあり方に着目して社会現象や社会問題を解明しようとする学問である。環境条件に適応しつつ持続的に発展する人間社会の未来を構想するには、社会関係や社会構造に関する深い理解が欠かせない。本学の社会学講座は、理論と実証の両面における社会学の有力な研究拠点に発展している。社会学の伝統と諸潮流をふまえてアジア発のグローバルな社会学理論の展開をめざすと同時に、質的・量的方法を駆使して国内外の地域と多様なフィールドで調査をおこない、社会問題の解明と政策提言に向けた研究を推進している。
地理学	人間活動と環境とのかかわりをとらえることは地理学の本源的な課題であり、そのためには、人間を取り巻く自然環境、人文・社会環境について、それぞれのシステム及び人間活動との関係を解明することが重要なテーマとなっている。本分野では、これら人間を取り巻く環境と人間活動との関係について、自然地理学・人文地理学・地理情報学を柱として、特に、地域性を踏まえながら教育・研究を行う。また、人間が自らを取り巻く地理的環境をどのように空間的に認識し、より望ましい未来環境の創造に向けていかに取り組むべきかという、人間の地理的環境に対する永続的な働きかけと、これに対する環境側の作用に関して、主として空間的な視点からの教育・研究を行う。



## 学 位

環境学研究科における学位は、「環境学」の専攻分野について、履修指導、研究指導等を受け、専攻分野における専門的学識と研究能力を有すると認められる者に授与するものです。

本研究科が新たな学問体系として構築を目指す「環境学」は、その枠組みを支える理学、工学及び人文社会学の視点を共有した学際的性格を有しています。

このため、本研究科としては、「環境学」の専攻分野のほか、これらの学術分野の専門的学識と研究能力を身に付けたと認められる者に、理学、工学、建築学、経済学、法学、社会学、地理学の7種類の専攻分野について、それぞれの学位を授与するものです。

本研究科において、所定の修了要件を満たした者に対しては、次のうちいずれか一つの専攻分野に相当する学位が授与されます。

### ○博士課程（前期課程）

専 攻 名	専 攻 分 野	
地球環境科学専攻	修士（環境学）	修士（理 学）
都市環境学専攻		修士（工 学） 修士（建築学）
社会環境学専攻		修士（経済学） 修士（法 学） 修士（社会学） 修士（地理学）

### ○博士課程（後期課程）

専 攻 名	専 攻 分 野	
地球環境科学専攻	博士（環境学）	博士（理 学）
都市環境学専攻		博士（工 学） 博士（建築学）
社会環境学専攻		博士（経済学） 博士（法 学） 博士（社会学） 博士（地理学）

参考）2001年創設以来の学位取得者数（2017年9月末現在）

修士：2,043名

博士：473名（課程博士 397名，論文博士 76名）



受験に際しての注意事項等



# 地球環境科学専攻

## 1. 試験場と集合時刻

### 1.1 博士課程前期課程

#### 一般選抜、留学生特別選抜及び社会人特別選抜入試

平成30年2月14日（水） 8：45より 英語スコアシートの提出

9：15より 口述試験（※留学生特別選抜のみ、口述試験に加えて英語面接を実施する）

集合場所：環境総合館3階315号室（演習室3）

集合時刻：「英語スコアシートの提出」開始10分前

口述試験の内容：卒業研究の内容や入学希望分野での研究計画の概要などについて5分間の発表を課す。その後、発表内容等について口頭試問を行う。なお、発表には白板とPCプロジェクターを使用できる。Microsoft Power Point 2010以降をインストールしたパソコン（OS: Windows）が用意されている。

\*口述試験は遅刻を認めない。

### 1.2 博士課程後期課程

#### 一般選抜及び社会人特別選抜入試

**【地球惑星科学系】** 地球惑星科学系（地球環境システム学，地質・地球生物学，地球化学，地球惑星物理学，地球惑星ダイナミクス，地球史学，生態学）の志願者

平成30年2月14日（水） 13：00より 口述試験

集合場所：環境総合館3階311号室（演習室2）

集合時刻：試験開始10分前

口述試験の内容：名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻地球惑星科学系からの進学志願者には、修士学位論文などの研究内容及び進学後の研究計画について約15分の口頭試問を行う。上記以外からの志願者には、修士学位論文などの研究内容と入学後の研究計画について15分の発表を課す。その後、専門に関する能力と語学力（英語）について、約15分の口頭試問を行う。なお、発表にはPCプロジェクターと白板を使用できる。また、Microsoft Power Point 2010以降をインストールしたパソコン（OS: Windows）が用意されている。

**【大気水圏科学系】** 大気水圏科学系（地球環境変動論，気候科学，物質循環科学，地球水循環科学）の志願者

平成30年2月14日（水） 13：00より 口述試験

集合場所：環境総合館3階315号室（演習室3）

集合時刻：試験開始10分前

口述試験の内容：名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻大気水圏科学系からの進学志願者には、研究計画を中心とした内容についての10分の発表を課す。上記以外からの志願者には、



修士論文等と研究計画の内容について合わせて30分以内の発表を課す。その後、発表内容について、質疑応答を行う。なお、発表にはPCプロジェクターと白板を使用できる。また、Microsoft Power Point 2010以降をインストールしたパソコン（OS: Windows）が用意されている。

\*口述試験は遅刻を認めない。

### 留学生特別選抜入試

**【地球惑星科学系】** 地球惑星科学系（地球環境システム学，地質・地球生物学，地球化学，地球惑星物理学，地球惑星ダイナミクス，地球史学，生態学）の志願者

平成30年2月14日（水） 13：00より 口述試験

集合場所：環境総合館3階311号室（演習室2）

集合時刻：試験開始10分前

口述試験の内容：名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻地球惑星科学系からの進学志願者には、修士学位論文などの研究内容及び進学後の研究計画について約15分の口頭試問を行う。上記以外からの志願者には、修士学位論文などの研究内容と入学後の研究計画について15分の発表を課す。その後、専門に関する能力と語学力（英語）について、約15分の口頭試問を行う。なお、発表にはPCプロジェクターと白板を使用できる。また、Microsoft Power Point 2010以降をインストールしたパソコン（OS: Windows）が用意されている。

**【大気水圏科学系】** 大気水圏科学系（地球環境変動論，気候科学，物質循環科学，地球水循環科学）の志願者

平成30年2月14日（水） 13：00より 口述試験

集合場所：環境総合館3階315号室（演習室3）

集合時刻：試験開始10分前

口述試験の内容：名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻大気水圏科学系からの進学志願者には、研究計画を中心とした内容についての10分の発表を課す。上記以外からの志願者には、修士論文等と研究計画の内容について合わせて30分以内の発表を課す。その後、発表内容について、質疑応答を行う。なお、発表にはPCプロジェクターと白板を使用できる。また、Microsoft Power Point 2010以降をインストールしたパソコン（OS: Windows）が用意されている。

\*口述試験は遅刻を認めない。

## 2. 試験科目「英語」における TOEFL, TOEIC または IELTS スコアの使用について（博士課程前期課程志願者のみ）

### 2.1 試験の方法

- (a) 英語外部検定試験のスコアシートを提出する者は、志願票の「スコア提出」欄にチェックして出願すること。今回の試験で有効とする検定試験の種別、ならびに受験日については、募集要項「5.2 試験当日に提出する書類」を参照すること。
- (b) TOEFL/TOEIC/IELTS を未受験のためにスコアシートを提出できない者に限り、平成30年2月

5日（月）13：00～15：30に試験会場において当専攻が実施する TOEFL-ITP 試験を受験することができます。受験を希望する者は、志願票の「TOEFL-ITP を受験」欄にチェックして出願すること。試験の詳細は後日連絡する。

- (c) 上記 (a) または (b) のどちらか一方のみを選択可能とする。出願後の変更は一切認めないので注意すること。

## 2.2 スコアシートの提出方法

TOEFL/TOEIC/IELTS スコアシート	出願時	試験当日
試験当日までに取得予定	志願票の該当欄に記入する。	スコアシート原本を提出する（返却はしない）。
なし	志願票の該当欄に記入する。	当専攻が実施する TOEFL-ITP を受験する。

- (a) 試験当日の「英語スコアシート原本の提出」の際にスコアシートの原本を持参していない場合、試験科目「英語」の点数が零点となるので、十分に注意すること。
- (b) 入試までの間に開催される TOEFL/TOEIC/IELTS の試験の回数は限られているので、これから TOEFL/TOEIC/IELTS を受験する者は試験開催日程に注意すること。

## 2.3 換算方法

- (a) TOEIC と TOEFL の間の換算に関しては以下の式を使用する。  

$$\text{TOEIC スコア} \times 0.348 + 296 = \text{TOEFL (PBT) スコア}$$
- (b) TOEFL (iBT) と TOEFL (PBT) の間の換算に関しては、一般的に用いられる換算表を使用する。
- (c) IELTS からの換算は、一般的に用いられる換算表に基づいて TOEFL (PBT) に換算する（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）。

## 2.4 TOEFL/TOEIC/IELTS および TOEFL-ITP に関する詳細

下記のホームページを参照するか、または試験の実施機関に問い合わせること。

TOEFL: <http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html>

TOEIC: <http://www.toeic.or.jp/toeic/index.html>

IELTS: <http://www.eiken.or.jp/ielts/index.html>

## 3. 出願に際して

### 3.1 志望分野

博士課程前期課程の出願者は、志望する教員もしくは分野を第2志望まで選ぶことができる。志願者は受験案内やホームページなどを参考にし、教員の研究内容等を熟慮した上で志望先を決めること。なお、平成29年8月実施の第I期募集において、指導可能な人数の上限に達した教員もいるため、必ず事前に指導希望教員へ連絡を取り、可能な限り研究室を訪問すること。（各研究室または教員の連絡先は本受験案内等を参照）。

### 3.2 指導教員および教育研究内容の一覧

#### 【地球惑星科学系】

分野名	指導教員名	教育研究内容
地球環境システム学	山口 靖 教授	リモートセンシングを観測手段として次のような研究を行っている；ローカルな地表被覆変化抽出や熱収支観測による環境解析，グローバルな植生変動解析と炭素循環モデルとの比較，地球や月表面の地質マッピングと地質過程の解析など。
	高野雅夫 教授	「千年持続可能」な地球・社会システムを構想する。マイクロ水力発電や地中熱利用，木質バイオマスエネルギー等小規模自然エネルギー技術の開発と，それらを活用した中山間地域の地域再生など。
	平野恭弘 准教授	森林の地下部生態系（樹木根や森林土壌）システムを生態生理学的視点から解明することを目指す。特に樹木根の炭素循環への貢献度や酸性化に伴う影響程度を明らかにする。
地質・地球生物学	竹内 誠 教授	地質学・堆積学・堆積岩岩石学的手法による東アジア造山帯の地質構造発達史の解明。特に碎屑岩の碎屑物組成からみた造山運動の性質を明らかにすることを主とする。
	氏原 温 准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新生代翼足類化石の生層序学的・古水温的研究</li> <li>• 瀬戸内区の中新生古地理</li> </ul>
	須藤 斎 准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 珪藻化石などの微化石による地質学的・古生物学的手法を用いた生層序の確立，海生プランクトン進化史の解明および古環境変遷の復元</li> <li>• 地質学的イベントとの比較検討による珪藻および他の海洋生物との共進化の解明</li> </ul>
	マーク アンドレ ハンブレ Marc Andre Humblet 特任准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新生代の海水準および気候変動に対する太平洋域の造礁性サンゴの環境応答に関する研究</li> <li>• 薄片観察およびCT スキャンによる造礁性サンゴ化石の形態分類基準の確立</li> </ul>
	林 誠司 講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 形態学的・分子系統学的手法を用いた，軟体動物の系統進化と多様性についての研究</li> </ul>
地球化学	山本綱志 教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 生物試料を用いた海洋環境汚染評価</li> <li>• 風化プロセス・酸化還元フロント形成における元素移動の解明</li> <li>• 珪質堆積岩の成因と堆積環境に関する研究</li> <li>• 地球化学分析法の開発</li> </ul>
	日高 洋 教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 惑星物質の元素同位体変動からみた原始太陽系の進化過程の解明</li> <li>• 惑星物質と宇宙線の相互作用に関する同位体化学的研究</li> <li>• 自然界における核反応の同位体化学的検出法の開発</li> </ul>
	三村耕一 准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 高温高圧環境における有機物の安定性の研究</li> <li>• 惑星形成にともなう揮発性元素の挙動ならびにその同位体挙動の実験的検証</li> <li>• 初期地球における生命の起源・進化の解明</li> </ul>
	平原靖大 准教授	星間分子・惑星大気の外赤外線・電波領域での観測，そのための新しい観測装置の開発と，宇宙化学において重要な，短寿命分子種の実験室での生成と高分散スペクトルの研究を行っている。
	浅原良浩 准教授	地球科学試料の金属元素同位体の分析とその応用に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 海洋堆積物や沈降粒子を用いた海洋物質循環の解明</li> <li>• 石灰岩などの堆積岩を用いた過去の地球表層環境の解明</li> <li>• 火成岩および鉱床の年代測定および成因解析</li> </ul>

地球惑星物理学	渡邊誠一郎 教授	惑星系形成・地球初期進化・生命の起源に関する理論的研究： 太陽系及び太陽系外の惑星系がどのように形成され、進化したかを、素過程の物理を検証しつつ数値シミュレーション等で解明する。
	熊谷博之 教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>火山で発生する地震や振動現象の震源過程と噴火の発生メカニズム</li> <li>アジア・太平洋地域の沈み込み帯における巨大地震の発生過程</li> <li>地震学的手法を用いた火山および地震モニタリングの高度化</li> </ul>
	桂木洋光 准教授	粉体物理、パターン形成などを中心とした非線形ソフトマター物理の基本原則とその地球惑星現象への応用を実験的に研究する。
	城野信一 准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>惑星系形成過程における物質進化の数値シミュレーション</li> <li>小惑星、彗星核など太陽系小天体の進化に関する理論的研究</li> </ul>
	諸田智克 講師	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽系探査データを用いた月惑星の進化学研究</li> <li>月惑星の火成活動と熱進化史</li> <li>天体衝突現象と太陽系力学進化</li> </ul>
地球惑星ダイナミクス	山岡耕春 教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>能動震源をもちいた地震発生場や火山活動モニタリングの研究</li> <li>地殻変動や地震活動に関する統計的活動研究</li> </ul>
	鷲谷 威 教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>地殻の変形過程の理論的・観測的研究</li> <li>地震発生サイクルと断層すべり挙動に関する研究</li> <li>地殻変動に基づく日本列島の地震、火山、テクトニクスの研究</li> <li>数値シミュレーションによる地殻活動予測とデータ同化</li> </ul>
	渡辺俊樹 教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>物理探査による地下構造と物性の可視化、モニタリング手法の開発</li> <li>地震波動場解析による地震・火山現象発生場の解明</li> <li>地下構造の物理探査のエネルギー資源・環境・防災など諸問題への適用</li> </ul>
	田所敬一 准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>海底地殻変動観測システムの開発およびそれを用いた観測</li> <li>地震学的手法による断層破砕帯の構造およびその時間変化に関する研究</li> <li>地震波解析による地殻内不均質性に関する研究</li> </ul>
	山中佳子 准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震発生メカニズムの研究（震源課程、アスベリティマップ、テクトニクス）</li> <li>地震波を使った地震、火山現象に関する研究</li> </ul>
	橋本千尋 准教授	プレート間相互作用に起因する固体地球表層部の変動現象に関する理論的研究：地震発生サイクルの物理過程、プレート収束帯のテクトニクス、日本列島の地殻活動シミュレーション等。
	伊藤武男 准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>数値シミュレーションを用いた地殻活動に関する研究</li> <li>GNSS観測を用いた電離層・地球潮汐・海洋潮汐に関する研究</li> <li>地殻変動データに基づく地震発生サイクルの理論的・観測的研究</li> </ul>
	寺川寿子 講師	地震発生のメカニズムの解明に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>プレート運動による応力蓄積過程に関する理論的研究</li> <li>地震を引き起こすテクトニック応力場の研究</li> <li>プレート境界面・断層の摩擦強度と間隙流体の関係の理解を目指した研究</li> <li>地震と火山噴火の相互作用に関する研究</li> </ul>
地球史学	榎並正樹 教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレート収束域の岩石学</li> <li>地殻-マントルの相互作用</li> <li>地球深部の元素循環と造岩鉱物学</li> <li>ラマン分光学の地球科学的研究への応用</li> </ul>
	吉田英一 教授	地球表層での風化変質を伴う物質循環・移動に関する現象を研究。特に岩石鉱物と地下水との反応に伴う物質の溶解、沈澱やそれらに伴う二次的物質の濃集や固定現象、さらに物質が移動する割れ目形成や断層中の状態に関する環境地質学・応用地質学を実施。

	大路樹生 教授	化石や現生海洋動物の主として形態に基づく進化古生物学, 古生態学を行っている。特に棘皮動物ウミユリ類の古生物学, 捕食-被食関係の進化, カンブリア紀初期の多細胞動物の爆発的出現に関する研究に興味を持っている。
	北川浩之 教授	宇宙線生成核種 ( $^{10}\text{Be}$ , $^{14}\text{C}$ , $^{26}\text{Al}$ , $^{36}\text{Cl}$ など) は, 各種年代測定法に利用できるだけでなく, 地球システムの状態や変動の特性を調べるトレーサーとして有効です。アジアを主要な研究対象地域とし, 湖沼堆積物や考古遺跡の年代測定, またそれらに記録されている環境変動や人類史の解説を行っています。
	南 雅代 准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>炭素14を用いた地球化学・文化財化学: コンクリート劣化の定量的解析, 遺跡から出土した人骨の年代測定, 高精度炭素14測定のための分析手法の開発</li> <li>同位体地球化学: Sr 同位体比を用いた古代における人やものの移動の解明, 全国地質 Sr 同位体比マッピング, 骨の炭素・窒素同位体比を用いた食性解析</li> </ul>
	加藤丈典 准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>CHIME 年代測定とその応用に関する研究</li> <li>造岩鉱物と電子の相互作用及び X 線分光分析</li> </ul>
	東田和弘 准教授	フィールドワークを中心に, テクトニクスの研究を行っている。具体的には, ゴンドワナ大陸の形成・分裂からユーラシアの形成に至る過程を, モンゴル, ロシア, 南極, 日本の地質調査をもとに研究している。
	西田佐知子 准教授	植物の分類学や生態学を研究。とくに近縁な植物の種間相互作用や, 植物小器官と動物の相互作用に関する生態学的研究, 熱帯産クスノキ科の分類学的研究を行っている。
	門脇誠二 講師	人類の進化や農業の起源をテーマにして, 考古学や関連諸科学の方法を用いた研究を行っている。主に西アジアで遺跡調査を行い, そこから採取した遺物(石器などの道具)の形態や製作技術の分析の他, 動物骨の古代 DNA 分析も行っている。
生態学	杉谷健一郎 教授*	<ul style="list-style-type: none"> <li>初期地球(太古代)における表層環境と生態系進化の解明</li> <li>河床礫バイオフィームにおける栄養塩や金属元素の動態の研究</li> <li>同位体を用いた河川生態系の構造解析</li> </ul>
	夏原由博 教授*	<ul style="list-style-type: none"> <li>小型動物の生態研究</li> <li>保全生物学</li> <li>地理情報システムを用いた生態系管理</li> </ul>
	依田 憲 教授*	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物行動学, 進化生態学, 環境生態学</li> <li>バイオリギングを用いた野生動物の遠隔追跡</li> <li>動物生態, 行動, 生理, 進化, 環境の階層を繋ぐ統合的理解</li> </ul>

注) \*の教員は, 平成30年4月1日に都市環境学専攻より異動予定である。

### 【大気水圏科学系】

分野名	指導教員名	教育研究内容
地球環境 変動論	篠田雅人 教授	専門分野: 気候学, 干ばつ科学, 乾燥地科学。研究内容: 水・エネルギー・炭素循環を通じた気候と陸域生態系の相互作用, ユーラシア草原における干ばつ野外実験, 乾燥地災害の早期警戒システムの構築, 黄砂発生と砂漠化, 野生動物の長距離移動と気候・植生・積雪分布, 遊牧知の科学的検証(遊牧はなぜ数千年も続いてきたか?)



	中塚 武 客員教授*	樹木年輪や堆積物コアの地球化学的分析, 特に酸素・水素・炭素・窒素安定同位体比の分析による気候・環境変動の研究と, 河川-大陸棚-外洋系における物質輸送と生物生産の関係の解析を主に行っています。主な研究フィールドは, 日本各地, ロシアを含む東アジアと, その周辺海域です。
	谷口真人 客員教授*	地球環境学・水文学・地下水学。水循環と人間社会との関係性に関する研究に従事。循環論と地域の風土・ケバビリテー論をもとに, フィールド調査による帰納法的手法と理論・衛星データ解析などの演繹的手法を用いる。特に陸域-海域相互作用研究, アジアの地下環境問題, 都市化による環境変化等を主なテーマとする。
	藤田耕史 准教授	ヒマラヤ・チベットなどのアジア高山域における氷河変動を主なテーマとし, 観測による実態把握・数値計算による動態予測・氷河コアを利用した環境復元を進めている。
気候科学	柴田 隆 教授	成層圏や対流圏のエアロゾル, 極成層圏雲, 熱帯圏界面巻雲, 黄砂, などの大気中の微粒子が, 温暖化, オゾンホール, 大気物質循環, などの現象にどのように影響を与えるかを中心に研究しています。レーザーレーダー(ライダー)を初めとした種々の観測技術やコンピューターシミュレーションを利用します。
	西村浩一 教授	雪氷に関わる様々な現象について, メカニズムの解明と気候変動に対するレスポンスを視野に, 実験, 観測, モデル構築という多角的な手法で研究を展開している。主な研究テーマは, ①地吹雪観測による南極氷床の積雪再配分量の研究, ②複雑地形上の積雪深分布推定手法の開発と非定常積雪モデルの構築, ③雪崩ダイナミクスの実験・観測とモデルの開発, 氷河流動への応用, ④雪氷複合災害の危険度評価手法の開発など。
	須藤健悟 准教授	大気化学・エアロゾルを軸として, 地球環境・気候の変動過程の評価・予測を主に数値シミュレーションにより行っている:(1) 全球規模の大気汚染の解明, (2) 成層圏/対流圏オゾンやエアロゾル全球分布の変動評価と気候への影響の研究, (3) 地球システム統合モデルによる地球温暖化・大気環境変化予測など。手法: 気候モデル, 化学輸送モデル, 衛星観測等データ解析。
	持田陸宏 准教授	化学を基盤にした大気エアロゾル研究。エアロゾル粒子の吸湿性や不均一酸化反応など, 気候プロセスとの関連性が高いと考えられる物理化学的特性・反応過程に焦点をあて, 野外観測と室内実験の2つのアプローチにより, その解明を目指している。
	伊藤昭彦 客員准教授*	陸域生態系が地球の物質循環や気候システムに果たす役割を, 主に数値シミュレーションで研究している。特に, 森林の二酸化炭素交換や窒素循環を, 生態学的な視点から理解したいと考えている。最近では, 土地利用などの人間活動が生態系の構造や機能に与える影響の解析にも力を入れている。
物質循環科学	角皆 潤 教授	陸上や海域の生態系と, 地球システムとの相互作用を, フィールドにおける観測を通じて解明しています。特に温室効果気体等の気体分子の放出や吸収に関わる(微)生物活動や, 環境変化に対する生態系の応答などを中心的な課題に据えて, これを自然界における同位体を含めた元素分布やその時間変化を指標に活用して解明しています。将来的には各生物群を物質循環に果たす役割から分類する, 新しい生物科学の確立を目指しています。
	長田和雄 教授	大気エアロゾル, 特に山岳域や極域, 洋上などの遠隔地におけるエアロゾル粒子を採取・観測して, 生成から変質・沈着するまでを, ガス状先駆物質や降水の化学成分も含めて研究している。

		中川書子 准教授	地球環境や身の回りの生活環境の変動・変化に大きく関わる環境物質を研究対象として、それらの起源や、地球表層システム（大気・海洋・陸域）における循環速度の解明に挑戦しています。なかでも、人間活動に由来する物質の環境負荷量の定量化やその影響評価を第一の目標としています。このため、単に環境物質の分布やその時間変化を計測するのではなく、それらの自然同位体組成の同時定量を実現することで、より多くの情報を観測から抽出することを目指しています。
地球水 循環科学	気 象 学	坪木和久 教授	気象学の中でも特に雲や降水に関わる物理過程、降水や雲のメソ気象学、豪雨・豪雪の気象学など、雲・降水を主体とした気象学・大気物理学を研究しています。主な研究対象は台風、梅雨に伴う豪雨、積乱雲と竜巻、冬季の降雪などです。こうした現象について、観測、データ解析、コンピューターシミュレーションなどによる研究を行っています。
		高橋暢宏 教授	雲・降水の空間分布、時間変動、構造およびそれらのメカニズムに関して、全球的には衛星観測により、またアジアや日本などのある特定の領域については、衛星と特殊レーダーなどを用いた観測により大気水循環に関する観測的研究を行っています。これらを行うために新しい衛星センサーの開発や検証なども行っています。
		増永浩彦 准教授	地球気候の成り立ちについて、主として衛星データを用いた雲・降水システムの観測的理解を深める見地から研究しています。集中豪雨の事例解析といった局所的・突発的な気象の研究とは立場を異にし、広域の大気力学・熱力学の役割を重視した現象解明を目指しています。同時に、観測データとの比較解析に基づく数値モデルの検証研究や、衛星データ解析アルゴリズムの開発も行っています。
		篠田太郎 准教授	湿潤アジア域や西太平洋域を対象として、雲・降水システムの内部構造や発達・維持過程を観測と数値モデルを用いて研究しています。梅雨前線や台風に伴う豪雨について、強い降水をもたらす最小単位である降水セルから、豪雨をもたらす大気環境場まで、様々な時間・空間スケールでの解析を行っています。関係する雲物理過程、大気境界層過程、衛星データを用いた数値モデルの検証手法の研究も進めています。
海 洋 学	石坂丞二 教授	海洋の一次生産者である植物プランクトンの動態に関して、衛星データや船舶観測を用いて研究をしています。植物プランクトンは物質循環や生物生産に重要な役割を果たしており、人間活動の引き起こしている気候や水循環などの環境変化に伴った生態系の変化の指標となります。内湾域、東シナ海、日本海などの沿岸域から外洋域までの様々のスケールでの研究を行っています。	
	相木秀則 准教授	環境・災害問題についての数値シミュレーションを行いながら、大気・海洋・波浪（海面の風波やうねり）結合モデルについての技術開発と基礎研究を進めています。海洋中の各種波動の解析研究も行っています。特にエルニーニョ現象やインド洋ダイポールモード現象のような気候変動において、赤道域の波動が果たす役割に注目し、そのエネルギー伝達経路の同定を目指しています。	
水 文 学	檜山哲哉 教授	地球温暖化の影響が懸念されるシベリア、モンゴル、アラスカの陸域水循環プロセスとその変動を研究しています。また、メタンなどの温室効果ガスの動態を観測しています。さらに、気候変動にともなって降水量の年々変動が大きく変化している（洪水と干ばつのリスクにさらされている）南部アフリカのナミビアで、水-食料安全保障の研究を進めています。	

	栗田直幸 准教授	水循環情報を保持する化学トレーサーを活用して、地域スケールから地球規模スケールに至る様々なスケールで起こる水循環の諸課題を解明する研究に取り組んでいます。特にアジアおよび南極を主要な研究対象地域とし、気候変化が水循環に及ぼすメカニズムの解明を目指しています。研究手法は、野外観測、化学分析、データ解析、数値実験を組み合わせて利用しています。
	藤波初木 講師	多様な地表面状態を有するアジアにおける雲・降水の時空間変動とその変動要因を、衛星データ、全球大気再解析データ、現地観測データを用いて解析的に研究しています。日変化、熱帯擾乱、季節内変動、季節変化、年々変動及び長期変化傾向など様々な時間・空間変動の実態解明とその変動プロセスの理解を通して、地球の気候システムの理解を目指します。

**\*環境学研究科連携教員**

主指導教員が連携教員である大学院生は、本研究科専任の教員から必ず副指導教員を選ばなければなりません。研究指導は、国立環境研究所（茨城県つくば市）もしくは総合地球環境学研究所（京都市）と名古屋大学で実施される。

# 都市環境学専攻

## 1. 都市環境学専攻の履修コース，問題選択および指導教員について

都市環境学専攻では，空間環境学コース，物質環境学コース，建築学コースの3つの履修コースを設け，体系的な学習を目指している。履修コースごとに取得できる学位の分野が異なり，それぞれ修了要件が定められている。

学力検査は履修コースごとに実施し，日程，内容ともに異なる。また，併願はできない。したがって，履修コースと希望する指導教員をあらかじめ選択の上，受験する必要があるので注意すること。なお，今回の第Ⅱ期入学試験では，建築学コースの博士課程（前期課程）の募集は行わないので留意すること。

各履修コースの教員名および教育研究内容を別表1「名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 指導教員および教育研究内容の一覧」に示すので，受験に際しての参考にすること。なお，一部の教員は複数のコースに関わる教育研究分野を担当しているので，これらについては該当するコースに重複して記載している。

名古屋大学国際環境人材育成プログラム（別紙1参照）の志望者は，空間環境学コースを受験すること。

## 2. 博士課程（前期課程）の案内

### 2.1 空間環境学コース

#### (1) 試験のスケジュールと試験場

年月日	時間	一般選抜	留学生特別選抜	社会人特別選抜	試験場
平成30年 2月1日（木）	9：30－12：00	筆記試験 （専門科目Ⅰ）	筆記試験 （専門科目Ⅰ）	口述試験	筆記試験は環境総合館3階講義室1，口述試験は別途指示する
	13：00－15：00	筆記試験 （専門科目Ⅱ）	筆記試験 （専門科目Ⅱ）		同上
	17：30－	面接	面接	面接	別途指示する

#### (2) 受験に際しての注意事項

- 出題範囲などについては，別表2「名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻（空間環境学コース・物質環境学コース）平成30年度博士課程（前期課程）入学試験（第Ⅱ期）学力検査出題範囲」を参照すること。
- 一般選抜及び留学生特別選抜を受験しようとする者は，筆記試験会場に試験開始の30分前までに入室すること。遅刻の場合，試験開始60分後までの入室を認める。
- 試験に際しては，黒鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・鉛筆削り・時計以外を使用してはいけない。辞書等（電卓あるいは辞書機能付き携帯電話・時計等も含む）は使用できない。なお，電卓に関しては，試験に必要な場合のみ大学側で準備する。

- 社会人特別選抜受験者は、あらかじめ指導希望教員と連絡をとり、口述試験に関して打ち合わせを行うこと。なお、口述試験の開始予定時刻・場所については、指導希望教員からあらかじめ通知する。

(3) 面接

空間環境学コースの全教員による面接である。集合時刻、開始予定時刻、面接場所、控室などについては、最初に実施する試験科目の際に通知する。

(4) 試験科目「英語」における TOEFL (Test of English as a Foreign Language) スコア, TOEIC (Test of English for International Communication) スコア, または IELTS (International English Language Testing System) バンドスコアの換算による採点について

1. 試験の方法

- (a) 試験科目「英語」における TOEFL/TOEIC/IELTS スコアの換算による採点は、前期課程／後期課程、一般選抜／留学生特別選抜／社会人特別選抜のいずれの試験でも実施する。
- (b) 今回の試験で有効とする外部検定試験の種別、ならびに受験年月日については、募集要項「5.2 試験当日に提出する書類」を参照すること。

2. スコアシートの提出方法

- (a) TOEFL/TOEIC/IELTS スコアシートは、その原本を最初の実施する試験科目（空間環境学コース博士課程（前期課程）一般選抜の場合は「専門科目 I」）の際に提出を求める。
- (b) 入試までの間に開催される TOEFL/TOEIC/IELTS の試験は、その回数が限られている。これから TOEFL/TOEIC/IELTS を受験する者は試験開催日程に注意すること。
- (c) TOEFL/TOEIC/IELTS に関する詳細は下記のホームページを参照するか、各試験の実施機関に問い合わせること。

TOEFL: <http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html>

TOEIC: <http://www.toeic.or.jp/toeic/index.html>

IELTS: <http://www.eiken.or.jp/ielts/index.html>

3. 換算方法

- (a) TOEFL (PBT) からの換算は、600点以上を満点に相当する200点、400点以下を0点として、以下の式を用いる。

$$\text{TOEFL (PBT) スコア} - 400 = \text{換算点}$$

- (b) TOEFL (iBT) からの換算は、一般的に用いられる換算表に基づいて TOEFL (PBT) に換算した後、(a) の方法を適用する。

- (c) TOEIC からの換算は、以下の式を使用して TOEFL (PBT) に換算した後、(a) の方法を適用する。

$$\text{TOEIC スコア} \times 0.348 + 296 = \text{TOEFL (PBT) スコア}$$

- (d) IELTS からの換算は、一般的に用いられる換算表に基づいて TOEFL (PBT) に換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後、(a) の方法を適用する。

- (e) 以上の換算方法は、今回の試験のみ適用されるものとする。



(5) 入学定員

「学生募集要項」の記載では、都市環境学専攻の募集人員は47名であるが、空間環境学コースには、第Ⅰ期入学試験における入学見込み者を含み、約20名まで入学が可能である。

(6) 過去の入試問題の公表

過去の入試問題については、下記で入手可能である。

都市環境学専攻 空間物質系ホームページ

<http://www.urban.env.nagoya-u.ac.jp/Jindex.html>

## 2.2 物質環境学コース

(1) 試験のスケジュールと試験場

年月日	時間	一般選抜	留学生特別選抜	社会人特別選抜	試験場
平成30年 2月1日(木)	9:30-12:00	筆記試験 (専門科目Ⅰ)	筆記試験 (専門科目Ⅰ)	口述試験	筆記試験は環境総合館3階講義室1, 口述試験は別途指示する
	15:00-	口述試験	口述試験		別途指示する

(2) 受験に際しての注意事項

- ・出願に当たり、事前に入学後指導を希望する教員と十分に打ち合わせしておくこと。
- ・出題範囲などについては、別表2「名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻（空間環境学コース・物質環境学コース）平成30年度博士課程（前期課程）入学試験（第Ⅱ期）学力検查出題範囲」を参照すること。
- ・一般選抜および留学生特別選抜を受験しようとする者は、筆記試験会場に試験開始の30分前までに入室すること。遅刻の場合、試験開始60分後までの入室を認める。
- ・試験に際しては、黒鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・鉛筆削り・時計以外を使用してはいけない。辞書等（電卓あるいは辞書機能付き携帯電話・時計等も含む）は使用できない。

(3) 試験科目「英語」における TOEFL/TOEIC/IELTS スコアの換算による採点について

「2.1 空間環境学コース」の(4)と同一であるので、同項目を参照すること。

(4) 口述試験

口述試験会場、控室などについては、最初実施する試験科目の際に通知する。なお、社会人特別選抜を受験する者に対しては、指導希望教員からあらかじめ通知する。

- ・これまでの研究内容及び前期課程での研究計画についての説明を行うとともに、専門に関する能力についての口述試験を行う。
- ・PC・プロジェクター等を利用することはできない。印刷物を参考資料として配布することは可能である。その場合は8部を試験会場に持参すること。
- ・社会人特別選抜を受験しようとする者は、社会人として活動した業績などを説明する資料（もしあれば）を、上に従って印刷物資料として持参することが望ましい。

(5) 入学定員

「学生募集要項」の記載では、都市環境学専攻の募集人員は47名であるが、物質環境学コースには、第Ⅰ期入学試験における入学見込み者を含み、約13名まで入学が可能である。

(6) 過去の入試問題の公表

過去の入試問題については、下記で入手可能である。

都市環境学専攻 空間物質系ホームページ

<http://www.urban.env.nagoya-u.ac.jp/Jindex.html>

### 2.3 建築学コース

今回の第Ⅱ期入学試験では、建築学コースの博士課程（前期課程）の募集は行わない。

## 3. 博士課程（後期課程）の案内

### 3.1 空間環境学コース

(1) 試験のスケジュールと試験場

年月日	時間	一般選抜	留学生特別選抜	社会人特別選抜	試験場
平成30年 2月1日（木）	9：30－12：00	筆記試験 （専門科目）	筆記試験 （専門科目）	口述試験	筆記試験は環境総合館3階講義室1，口述試験は別途指示する
	13：00－15：00	口述試験	口述試験		別途指示する
	17：30－	面接	面接	面接	別途指示する

(2) 受験に際しての注意事項

- 受験者は、別表1「名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 指導教員および教育研究内容の一覧」を参照の上、記載されている空間環境学コースの教員から指導を希望する教員を1名選び、その氏名を受験票および写真票の「指導教員名」欄に記入すること。
- 筆記試験（専門科目）[一般選抜、留学生特別選抜]の試験科目（3分野）設定のため、出願前に指導希望教員に必ず連絡をとり、受験の内諾を得ること。
- 一般選抜および留学生特別選抜を受験しようとする者は、筆記試験会場に試験開始の30分前までに入室すること。遅刻の場合、試験開始60分後までの入室を認める。
- 試験に際しては、黒鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・鉛筆削り・時計以外を使用してはいけない。辞書等（電卓あるいは辞書機能付き携帯電話・時計等も含む）は使用できない。電卓に関しては、試験に必要な場合のみ大学側で準備する。

(3) 試験科目「英語」における TOEFL/TOEIC/IELTS スコアの換算による採点について

「2. 博士課程（前期課程）の案内 2.1 空間環境学コース」の(4)と同一であるので、同項目を参照すること。

(4) 口述試験・面接

- 集合時刻，面接場所，控室などについては，最初に実施する試験科目の際に通知する。なお，社会人特別選抜を受験する者に対しては，指導教員からあらかじめ通知する。

### 3.2 物質環境学コース

(1) 試験のスケジュールと試験場

年月日	時間	一般選抜	留学生特別選抜	社会人特別選抜	試験場
平成30年 2月1日(木)	9:30-12:00	口述試験	口述試験	口述試験	別途指示する

(2) 受験に際しての注意事項

出願に当たり，事前に入学後指導を希望する教員と十分に打ち合わせをしておくこと。

(3) 試験科目「英語」における TOEFL/TOEIC/IELTS スコアの換算による採点について

「2. 博士課程（前期課程）の案内 2.1 空間環境学コース」の(4)と同一であるので，同項目を参照すること。

(4) 口述試験

- これまでの研究内容及び後期課程での研究計画についての説明を行うとともに，専門に関する能力についての口述試験を行う。
- OHP・プロジェクター等を使用することはできない。印刷物を参考資料として配布することは可能であるが，その場合には8部を用意し会場にて配布すること。
- 社会人特別選抜を受験しようとする者は，社会人として活動した業績などを説明する資料（もしあれば）を，上に従って印刷物資料として配布するのが望ましい。
- 口述試験会場，控室などについては，指導希望教員からあらかじめ通知する。

### 3.3 建築学コース

(1) 試験のスケジュールと試験場

募集要項に記載のとおり。

(2) 試験内容について

志願者は指導希望教員にあらかじめ連絡を取り，受験科目について指示を受けること。

1) 筆記試験（英語）[一般選抜，留学生特別選抜，社会人特別選抜]

辞書およびこれに類するものの使用は認めない。

2) 筆記試験（専門科目）[一般選抜，留学生特別選抜のみ]

志望する専門分野の筆記試験である。

3) 口述試験 [一般選抜，留学生特別選抜，社会人特別選抜]

希望する指導教員を中心とする建築学コースの教員により，これまでの研究内容及び後期課程での研究計画に関連する事項について試問するとともに，専門に関する能力について

口述による試験を行う。

4) 面接 [一般選抜, 留学生特別選抜, 社会人特別選抜]

建築学コースの全教員により, 志望の動機, これまでの研究内容および入学後の学習等に  
関連する事項を試問する。説明内容をまとめた資料の用意や説明方法などについては, 指導  
希望教員と事前に相談しておくこと。

(3) 入学定員

「学生募集要項」の記載では, 都市環境学専攻の募集人員は21名であるが, 建築学コースには約  
10名まで入学が可能である。

別表 1

## 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 指導教員および教育研究内容の一覧

コース	専門領域	指導教員名	教育研究内容
空間環境学	地圏・空間環境学	飯塚 悟 准教授*	温熱環境, 風環境, 空気環境, 室内環境, 屋外環境, 都市環境, コンピュータシミュレーション, 数値流体力学
	環境システム工学	一ノ瀬 俊明 客員教授***	都市大気・熱環境のモニタリング・モデリング, アジアにおける環境変化の解析・モデリング
		白川 博章 准教授	環境と経済の地域相互依存性評価, 都市環境管理の効率性評価, 環境政策の経済的評価
		谷川 寛樹 教授	マテリアルストック・フロー分析, 物質循環分析・評価, 低炭素都市づくり, GISによる環境解析・モデリング
		平山 修久 准教授	上水道工学, 危機管理・事業継続マネジメント, 水道管網システムの機能評価モデル構築, 災害廃棄物マネジメントシステム開発, 災害環境分野の人材育成手法
		藤田 壮 客員教授***	地域循環圏の設計と評価, 産業共生システム, 統合型都市環境評価システム, 循環経済都市マネジメント
		南齋 規介 客員准教授***	地球温暖化, 資源管理, システム分析
		藤井 実 客員准教授***	循環型社会, 地球温暖化対策, ライフサイクルアセスメント, 環境指標
国土・地域デザイン 交通・土地利用 環境計画	加藤 博和 教授	低炭素で持続可能な交通, 社会資本のライフサイクル環境評価, レジリエントな国土デザイン, 地域再生戦略	
	富田 孝史 教授	強靱で持続可能な国土デザイン, 環境/防災/利用の複合, 国土デザイン手法の国内外での社会実装	
	中村 英樹 教授	交通工学, 都市交通政策, 道路の計画設計, 交通運用, 利用者挙動モデリング, 交通流シミュレーション, ITS	
	森川 高行 教授	交通計画, 交通行動分析, 消費者行動論, 都市計画, 循環型環境都市, ITS	
	井料 美帆 准教授	交通工学, 歩行者交通, 自動車・歩行者交通流シミュレーション, 交通安全, マルチモーダルな道路計画設計, 交通運用	
構造工学 維持・管理学	森 保宏 教授*	構造信頼性工学, 耐震工学, 性能設計, 荷重・外力論, リスク評価/マネジメント, 維持管理・保全	
	尾崎 文宣 准教授*	鋼構造, 冷間成形鋼構造, 構造力学, 耐震・耐火設計, 火災工学	
生態・環境工学 河川・流域保全学	片山 新太 教授**	化学物質汚染土壌地下水の微生物浄化, 透過性反応浄化壁等の受動的浄化技術, 生物系廃棄物のリファイナリー資源化	

注) \*の教員は建築学コースの研究指導も行う。

注) \*\*の教員は未来材料・システム研究所所属である。副指導教員として希望することはできるが、主指導教員として希望することはできない。

注) \*\*\*の教員は連携教員である。主指導教員として連携教員を希望する大学院生は、加えて本研究科専任の教員から必ず副指導教員を選ばなければならない。連携教員は名古屋大学以外の大学・研究所等で勤務しているため、研究指導はその所属先と名古屋大学の両方で実施される。教育研究指導の進め方は、主・副指導教員と相談のうえ決定される。以下にその典型的な例を示すが、ほかに多様な形態が想定されるので、連携教員を主指導教員に希望する受験生は、事前に必ず主指導希望教員と相談すること。

前期課程1年次：講義受講（主に名古屋大学で実施）

前期課程2年次：連携教員の所属先でのセミナー，研究指導

後期課程：連携教員の所属先でのセミナー，研究指導

コース	専門領域	指導教員名	教育研究内容
物質環境学	人間・環境情報学 プロセスシステム	栗本 英和 教授	場の可視化，経営の質向上(経営品質)，システム情報学，イノベーション教育，情報マネジメント
	宇宙生物学 地球環境化学	杉谷 健一郎 教授 *	生命初期進化，地球表層環境進化，水環境の総合解析，生物地球化学的物質循環，堆積物・土壌重金属汚染
	保全生物学 生態学	夏原 由博 教授*	生態系ネットワーク，地理情報システム，自然再生，ランドスケープ，里山
	進化生態学 動物行動学	依田 憲 教授*	動物行動学，バイオロギング，環境生態学，適応進化，生物多様性
	機能物質化学	日比野 高士 教授	新エネルギー技術開発（燃料電池），低環境負荷技術（自動車触媒，センサ），マテリアルデザイン（無機機能性材料）
		村田 静昭 教授	DNAの利用（環境浄化，資源抽出），化学安全管理学
		岩松 将一 准教授	有機機能材料，ナノ炭素材料（フラーレン），有機合成化学，合成省力化，ホスト-ゲスト化学（分子認識）
		ジンチェンコ アナトーリ 准教授	天然高分子の材料化，環境浄化，ナノテクノロジー
		長尾 征洋 講師	エネルギー関連化学，エネルギーシステム最適化，人間・環境情報学，最適化計算

注) \*「環境機能物質学」分野の夏原由博教授，「物質環境構造学」分野の杉谷健一郎教授，依田憲教授は，平成30年4月1日より本研究科地球環境科学専攻に異動する予定である。当該教員の指導を希望する者は，出願前に連絡をとり相談すること。



コース	専門領域	指導教員名	教育研究内容
建築学	デザイン・計画学	片木 篤 教授	建築設計・建築意匠（建築の形態及び意味分析、西洋近代の建築・都市デザイン）
		小松 尚 准教授	建築計画，地域計画，居場所論
		恒川 和久 准教授 **	建築計画，ワークプレイス計画，キャンパス計画，ファシリティマネジメント
		西澤 泰彦 教授	建築史(日本および東アジアの近代建築)，技術史，土木史（都市基盤施設）
		太幡 英亮 准教授 **	建築計画学（計画基礎・地域／街路空間），建築／家具設計
		宮脇 勝 准教授	都市計画，アーバンデザイン，景観計画，まちづくり，都市再生
環境工学・ 設備工学		飯塚 悟 准教授*	温熱環境，風環境，空気環境，室内環境，屋外環境，都市環境，コンピュータシミュレーション，数値流体力学
		奥宮 正哉 教授	建築設備，都市エネルギー供給システム，自然エネルギー利用，システムの最適運転制御，空調設備の性能検証
		久野 覚 教授	環境心理学，温熱環境評価，視環境評価，都市居住環境に対する住民意識
		齋藤 輝幸 准教授	環境心理・生理，温熱環境評価，建築設備，住宅換気
		田中 英紀 特任教授 **	都市・建築設備の省エネルギー，都市・建築における自然・未利用エネルギー活用
構造工学・ 材料工学		尾崎 文宣 准教授*	鋼構造，冷間成形鋼構造，構造力学，耐震・耐火設計，火災工学
		勅使川原 正臣 教授	鉄筋コンクリート構造，構造・耐震設計，構造モニタリング，損傷制御技術
		飛田 潤 教授 **	地震・耐震工学，地域防災，建築環境振動，振動モニタリング，災害情報システム
		福和 伸夫 教授 **	都市防災，地盤震動学，地震工学，耐震工学，構造動力学，交通振動，免震・制震技術
		長江 拓也 准教授 **	耐震構造・性能評価（コンクリート系建築物，鋼構造建物，基礎構造），損傷抑制構法，地震防災
		古川 忠稔 准教授	構造力学，構造動力学，システム同定・制御・モニタリング，木質系構造
		丸山 一平 教授	建築材料学，コンクリート工学，セメント化学，維持管理工学，美観，耐久設計工学
		森 保宏 教授*	構造信頼性工学，耐震工学，性能設計，荷重・外力論，リスク評価／マネジメント，維持管理・保全
		護 雅史 特任教授 **	耐震設計工学，地震工学，地震防災，地盤と建物の動的相互作用

注) \*の教員は，空間環境学コースの研究指導も行う。

注) \*\*の教員は，協力教員である。

## 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻（空間環境学コース・物質環境学コース）

平成30年度 博士課程（前期課程）入学試験（第Ⅱ期）学力検查出題範囲

科目名	分野等	解答形式	主 な 出 題 範 囲
英語	英語	TOEFL, TOEIC または IELTS のスコアを提出する。	提出されたスコアにより成績を判定する。
専 門 科 目 Ⅰ	環境工学・ 環境政策	環境工学・環境政策から3問, システム学から1問, 化学か ら4問, 構造工学から2問, 計画学から2問の合計12問が 出題されるので, 3問を選択 し解答する(1分野のみから 選択してもよい)。	環境と経済, 交通と環境, 環境リスク, 費用便益 分析, 環境管理システムなどに関する基礎的知識 を問う問題, 国土環境保全, 資源・エネルギーの 利用と再生, 大気汚染・水質汚濁の防止, 環境影 響評価などに関する技術の実際と応用に関する知 識を問う問題。
	システム学		システムの解析, 設計, 制御, 運用, 評価等に関 する基礎的知識を問う。
	化学		次の(A)～(D)にグループ分けした分野に関する学 部教科書レベルの基礎的な内容について, 主とし て記述形式で理解を問う。 (A): 無機化学, 錯体化学, 元素化学, (B): 有機化学, 高分子化学, ナノ物質科学, (C): 物理化学, 熱力学, 量子化学, (D): 環境化学, 分析化学, その他基礎化学
	構造工学		材料の応力とひずみ, 骨組構造解析, 耐風・耐震 設計, 鋼構造, コンクリート構造, 骨組設計など。
	計画学		土木計画における統計的・数理計画的手法, 費用 便益分析, 地域計画, 都市計画, 土地利用計画, 交通工学などに関する問題
専 門 科 目 Ⅱ	小論文	(空間環境学コースのみ) 2問を解答する。	社会・経済および環境問題などに関する小論文で, 主としてその論理性を問う。

※専門科目Ⅰにおいて、環境工学・環境政策、システム学、化学、構造工学、計画学、専門科目Ⅱにおいて小論文のみで受験が可能となっており、文系を含めた幅広い分野の出身者が受験できるように配慮されています。

平成30年度 環境学研究科都市環境学専攻空間環境学コース  
「名古屋大学国際環境人材育成プログラム」の案内

名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻では、工学研究科土木工学専攻と協力して、「名古屋大学国際環境人材育成プログラム」を実施している。本プログラムは、アジア・アフリカ諸国が直面する様々な環境問題の解決を担う次世代の環境リーダーの育成を目的とするものである。

下記の説明および資料を参照の上、参加を希望する場合には、必要な手続きをとること。

**対象学生**

博士課程（前期・後期）に入学する留学生および日本人学生。

**プログラムの概要** ※詳細については、ホームページ (<http://www.civil.nagoya-u.ac.jp/nugelp/index.html>) を参照のこと。

- 地球環境問題や持続可能な開発問題を対象に、事象の理解、対策技術の理解・修得、制度設計・政策運営の能力獲得のための教育を実施する。講義等は英語で行う。
- グローバル研究インターンシップを必修科目とする。
- 留学生と日本人が相互に啓発しあいながら共に学び、国際的コミュニケーション能力を向上させる。
- 博士後期課程の学生は「統合環境学特別コース」に準じたカリキュラムで専門的かつグローバルな視野を培う。
- プログラム所定の学業を修めた学生には、修士学位或いは博士学位に加えて、プログラム修了認定証を授与する。

**参加希望から選考、参加までの流れ**

- ① 入学志願票のプログラム参加希望に関する欄に、参加希望である旨記入すること。（該当箇所回答がない場合には、選考の対象にならないので注意すること）
- ② 入試合否発表後、参加希望者のうち合格者を対象に面接を実施する。入試成績、英語能力、意欲などを総合的に評価して、プログラム学生を選考する。
- ③ プログラムから選考結果を通知する。
- ④ 入学時に、ガイダンスを実施する。

※選考案内を含むプログラムからの連絡は、基本的にメールで行う。参加希望の受験者は必ず、入学志願票に確実に受信できるメールアドレスを記載すること。特に入試合否発表前後は、定期的にメールを確認すること。

**注意事項**

- プログラム参加者は、別表1「名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 指導教員および教育研究内容の一覧」に示す空間環境学コース全教員を指導教員として希望することができる。
- プログラムの博士前期課程に所属する学生は、プログラム指定科目（指導教員によるセミナー科目8単位およびグローバル研究インターンシップ2単位を含む計22単位）を履修することが求められる（学位取得に必要な単位としてカウント可能）。
- プログラムの博士後期課程に所属する学生は、プログラム指定の後期課程の授業科目から、基礎環境学講究1と臨床環境学研修1を含む10単位以上を履修することが求められる。
- プログラム学生は通常の学生と同様に、都市環境学専攻空間環境学コースの教員の中から、自分の専門や興味にあわせて指導教員を自由に希望ことができ、それぞれの研究室に所属して専門分野について学びながら、プログラム履修を進める。プログラム参加については、事前に指導希望教員に相談し、承諾を得ること。
- プログラムが提供する科目は一部を除いて開放されている。したがって、プログラム参加学生以外の一般学生も受講可能である。

問い合わせ先： 名古屋大学国際環境人材育成プログラム（NUGELP）  
 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 D2-2 (510) 名古屋大学環境総合館401号室  
 E-mail: envleaders@urban.env.nagoya-u.ac.jp

# 社会環境学専攻

## 1. 社会環境学専攻の分野、出願に当たっての注意

社会環境学専攻は、それぞれカリキュラムの異なる5講座によって構成されています。学生は、それらの各講座のいずれかに所属し、指導教員の指導の下で修士論文または博士論文を作成することになります。所定単位を履修し、修士論文ないし博士論文の試験に合格すると、修士または博士の学位を取得できます。社会環境学専攻で取得できる修士ないし博士の種類は環境学・経済学・法学・社会学・地理学のいずれかで、それぞれ単位取得の要件が異なります。各講座の説明については、この冊子の「専攻の概要」または社会環境学専攻のホームページをご覧ください。(http://www.env.nagoya-u.ac.jp/dept/society.html)

また、過去の入試問題は、環境学研究科のホームページの「入試」をご参照ください。(http://www.env.nagoya-u.ac.jp/admission/index.html)

入学試験では、環境政策論、経済環境論、環境法政論、社会学、地理学の5つの分野で学生を募集します。各分野は各講座にそれぞれ対応します。社会環境学専攻の受験にあたっては、それらから志望する分野を1つ選ばなければなりません。または同じ分野内から、希望指導教員名を1人もしくは2人選んでください。(ただし、指導教員については、必ずしも受験者の希望がそのまま通るものではありません。)

入学後、指導教員とよく相談して学修・研究計画を立てる必要がありますので、どの分野を志望するか、どの教員の指導を希望するかということについて、受験前によく検討しておくことが必要です。なお各教員の教育研究内容を下表に掲げておきますので、検討の際に参考にしてください。とくに指導を希望する教員が決まっている場合、あるいは教育研究内容について質問がある場合は、受験前に、各教員まで遠慮なく連絡してください。

平成30年度の指導教員および教育研究内容の一覧

講座	教員	教育研究内容	
環境政策論	教授	竹内 恒夫	環境・経済・社会の統合, 脱温暖化社会, 循環型社会, 革新的政策手法の開発
		高橋 誠	社会地理学, 農村・農業政策, 災害・防災制度
		丸山 康司	環境社会学, 環境倫理, 科学技術社会論
	協力教員	涌田 幸宏	戦略経営, ネットワーク組織, 組織進化, 持続可能性, 環境パートナーシップ
経済環境論	教授	加藤 尚史	空間計量経済学, 空間統計学
		涌田 幸宏	戦略経営, ネットワーク組織, 組織進化, 持続可能性, 環境パートナーシップ
	准教授	中野 牧子	環境経済学, 生産性・効率性分析
		中田 実	環境経済学, 経済成長論
環境法政論	教授	山田 高敬	グローバル・ガバナンス論, 国際政治
		高村ゆかり	国際法, 国際環境法, 地球温暖化防止の国際制度, 環境リスクの国際的管理
	准教授	増沢 陽子	環境法, 環境政策, 環境リスク管理
		野村 康	環境政治, 環境教育, 政策過程, 民主化, 環境ガバナンス, NGO
		赤舘 芳宏	環境法, 環境政策

講座	教員	教育研究内容	
社会学	教授	丹邊 宣彦	階級, 社会階層, 集団形成・ネットワーク形成, 集合行為論, 産業都市論
		立川 雅司	食と農の社会学, 科学技術と社会, リスク・ガバナンス
	准教授	河村 則行	ポスト工業社会, 地域コミュニティ, 情報, グローバリゼーション
		室井 研二	社会学理論, 災害社会学, 離島・過疎地域研究
		上村 泰裕	福祉社会学, 比較社会学, アジアの社会政策
		青木 聡子	環境社会学, 社会運動論, ライフヒストリー
	福井 康貴	社会階層論, 経済社会学, 労働社会学	
協力教員	丸山 康司	環境社会学, 環境倫理, 科学技術社会論	
地理学	教授	岡本 耕平	人文地理学, 都市化, 生活空間, 空間認知, 地理学史
		鈴木 康弘	自然地理学, 活断層・変動地形学, 自然災害論
		横山 智	文化地理学, 文化生態学, 東南アジア地域研究
	准教授	奥貫 圭一	GIS (地理情報システム), 都市・地域分析, 地理空間データ分析
		堀 和明	自然地理学, 地形学, 第四紀学, 沖積低地
		伊賀 聖屋	人文地理学, グローバリゼーション, 食と農, ネットワーク
	協力教員	高橋 誠	社会地理学, 農村・農業政策, 災害・防災制度

協力教員を指導教員として希望する場合は、志願理由書の「指導教員名」欄に教員名と講座名を明記すること。

## 2. 前期課程の入学試験について

社会環境学専攻の前期課程の入学試験は、筆記試験と口述試験とから構成され、筆記試験には専門科目Ⅰと専門科目Ⅱとがあります。一般選抜（普通入試）と留学生特別選抜の受験生は、これらのすべての試験を受験しなければなりません。社会人特別選抜については、筆記試験（専門科目Ⅰ）と口述試験とが課されます。また、一般選抜（自己推薦入試）については、口述試験が課されます。

筆記試験では、専門科目Ⅰと専門科目Ⅱの双方とも、それぞれ入学志望分野の出題に解答しなければいけません。試験時間、各分野の出題範囲、その他の注意事項などについては、学生募集要項をご覧ください。なお口述試験は、基本的に分野ごとに行われます。

筆記試験などの試験会場については、受験票発送時に受験生本人に直接通知されます。



## 統合環境学特別コースの案内

グローバル COE プログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」(平成21年度～平成25年度)を契機に、統合環境学特別コースが平成22年度から環境学研究科大学院博士課程(後期課程)に設置された。この特別コースは生命農学研究科生物圏資源学専攻にも設置され、共同で授業や研究指導を行っている。以下で、環境学研究科に入学・進学を予定されている方を対象に統合環境学特別コースについて説明する。

1. 本特別コースは、環境学研究科の博士課程(後期課程)の各専攻(履修コース)に入学または進学する者が、各自の専攻・履修コースのカリキュラムに加えて、本人の希望により選択するものである。
2. 希望者は入学志願票の所定欄に✓を記入すること。
3. 主旨は専門分野の勉強・研究だけでなく、診断的分野と治療的分野をつなぐ臨床環境学・基礎環境学に積極的に参画して視野を広げようとする学生を育てることにある。
4. 修了要件：後期課程の授業科目から、臨床環境学研修1(2単位)と基礎環境学講究1(2単位)を含む10単位以上を履修すること。学位論文に関する研究指導は必修とする。修了に必要な単位数が、通常の専攻・履修コースより多いことに注意すること。
5. 学位は、各自の所属する専攻・履修コースでの取り扱いに従って審査・授与される。
6. 本特別コースの修了者には学位とは別に修了証を発行する。
7. 統合環境学特別コースに関連した後期課程授業は次の通りである。いずれも、研究科共通科目である。
  - (ア) 臨床環境学研修1, 2(各2単位)国内のフィールドにおいて、診断と治療の双方の教員・学生から成るチームが、問題特定から解決策の策定までの実践的な研修を進める。
  - (イ) 基礎環境学講究1, 2(各2単位)臨床環境学を支える体系としての基礎環境学を構築するため、環境の描像、診断と治療の方法、及び研究・実践の理念・態度に関して教員・学生双方で発表し、共有する。



